



1番 金松寺

15番 弥勒院

19番 幸徳院

21番 宝珠寺

23番 桃源院

まちづくりプラン大賞コンペティション提案

置賜三十三観音ご開帳事業

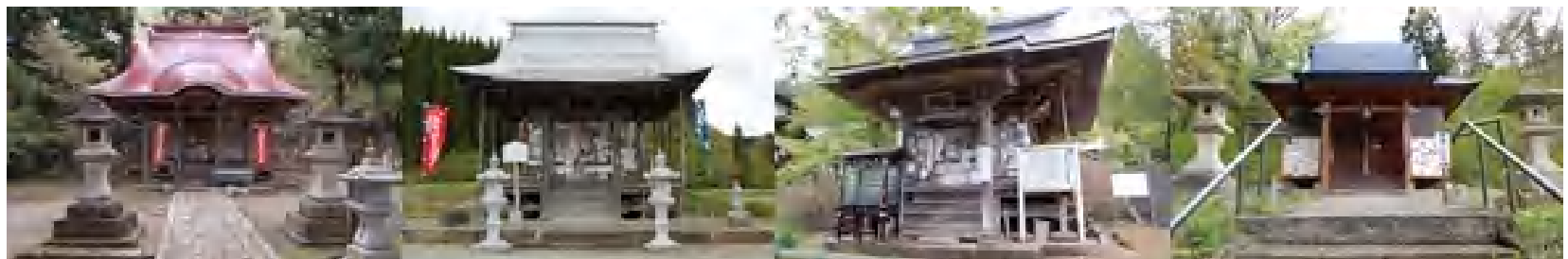
提案者 置賜三十三観音札所会

24番 普門寺

25番 竜性院

26番 西明寺

33番 泉養院



置賜三十三観音とは

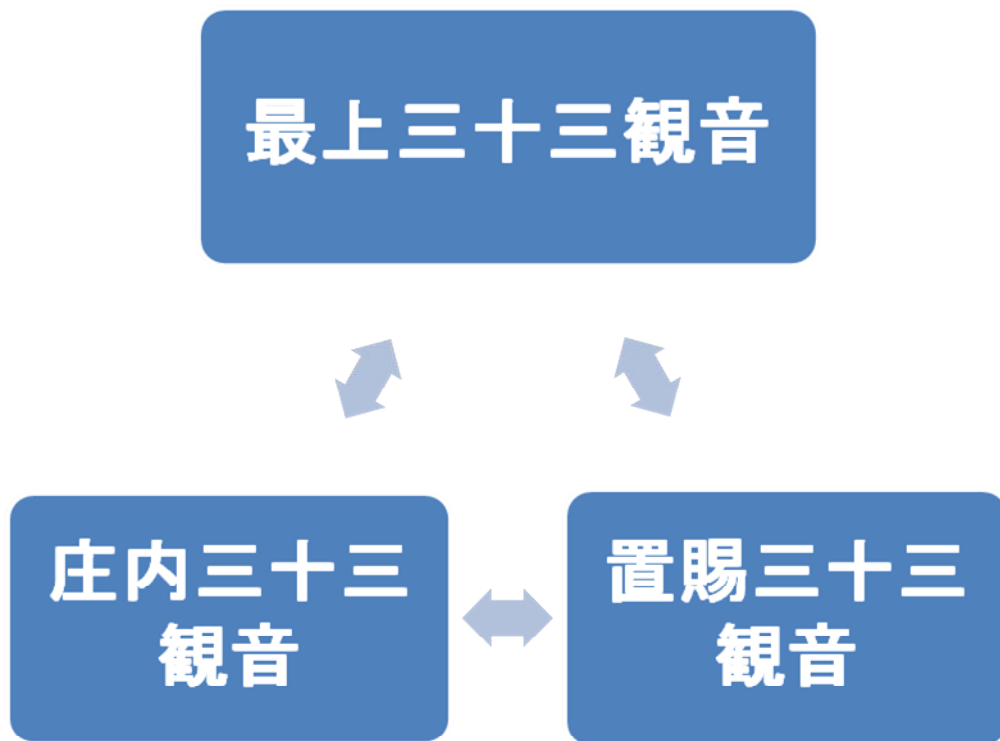
上杉家の重臣あった直江兼続公の後室お船の方が上杉領のなかで観音巡礼ができるように定められたとされる33の観音堂のこと。

「上杉家の観音霊場」

観音巡礼とは

33の定められた札所と呼ばれる観音堂をめぐり参拝していく。日本では平安時代よりおこなわれるようになり、西国三十三観音が有名である。

山形百観音（出羽百観音）



※庄内三十三観音にある
「首番札所」を加え百観音となる。

山形百観音	巡礼者数
<u>最上札所</u>	
年間	5,000人
ご開帳(20年)	30,000人
<u>庄内札所</u>	
年間	2,000人
ご開帳(22年)	16,000人
<u>置賜札所</u>	
年間	500人未満

札所会設立とご開帳

置賜札所会の設立

札所会の設立により連携した受入体制の確立とPRが可能となった。

平成21年3月設立

会員数95人(奉賛会・個人含む)

設立後の活動

- ・朱印の統一
- ・巡礼マップの作成
- ・のぼり旗の設置など

置賜三十三観音

連合ご開帳

期間 平成24年5月1日

～10月31日

ご開帳とは

厨子の扉が開かれ、本尊の観音様と出会える。また、観音様とつながる五色の紐をにぎることで深い縁を結べる。

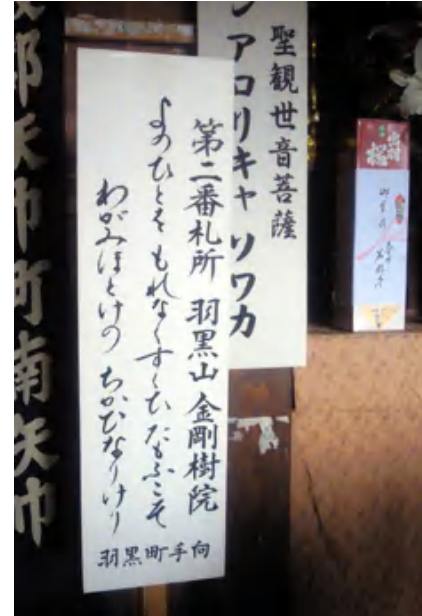
ご開帳への準備



五色の紐
観音様とご縁を結ぶご開帳の荘厳



御影
観音堂の観音様のお姿を写したお守り
(無料授与)



統一掲示物
観音堂の名前と番号、観音様のお名前、ご真言とご詠歌の掲示



のぼり旗
観音堂の目印になり、霊場の統一感や連帯感も生まれる。

ご開帳の予算

現在の予算

収入	1,300,000
支出	
印刷費	360,000
整備費	500,000
通信費	100,000
研修費	30,000
広告費	200,000
予備費	110,000
合計	1,300,000

補助を組み入れた予算

収入	1,800,000
支出	
印刷費	360,000
整備費	900,000
通信費	100,000
研修費	30,000
広告費	300,000
予備費	110,000
合計	1,800,000

※補助申請金額50万円

ご開帳の意義と効果

札所会として

- 広く置賜三十三観音の認知度の向上をはかる。
- 一大事業を実施することによって、受入整備の充実をはかる。
- 維持管理への一助など
(文化財の保護)

地域として

- 地域への経済効果
 予想巡礼者数5千人
 経済効果1億8千万円
- 文化財への関心喚起
- コミュニティーの復活
- 地域間の交流促進など

まとめとして

公益性

- 文化財保護、観光促進、地域活性化

広域性

- 広い地域と業種への波及効果

自立性

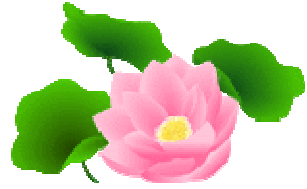
- 今後の自立した活動

確実性

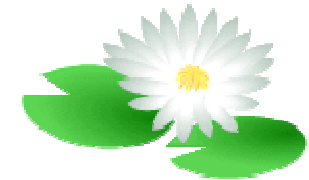
- ご開帳実施による確実な成果

継続性

- 札所会設立による新たな一歩



ご静静 あああ あああ ああ
ままま。



札所会 地域と宗派の分布

地域の割合		宗派の割合	
米沢地区	9カ寺(1カ寺)	真言集	18カ寺
川西地区	1カ寺	豊山派	11カ寺
飯豊地区	4カ寺(2カ寺)	醍醐派	4カ寺
南陽地区	4カ寺	新義	2カ寺
長井地区	6カ寺(4カ寺)	智山派	1カ寺
白鷹地区	9カ寺(8カ寺)	曹洞宗	12カ寺
高畠地区	1カ寺(番外)	天台宗	4カ寺

※統計数は番外亀岡文殊を含めて34カ寺のものです。

※地域の割合()は無住寺の数です。

朱印について

朱印とは、参拝した証としていただく朱色の判のこと。33の観音堂をめぐり、この朱印を集めることで二世安楽などの功德を得ることができる。

おいずり(200円)
県内巡礼者に多い

朱印帳(300円)
県外巡礼者に多い



置賜三十三観音の活動

